



陳情書第 8 号  
郵送

## 発達障害によるいじめ防止に関する陳情

平成27年1月9日

栗東市議会議長 高野正勝様

陳情者

大阪府箕面市外院3丁目12-9

090-6676-6707

発達障害の当事者

宇井 一 (宇井)

### 1. 陳情趣意

僕は発達障害（アスペルガー症候群、高機能自閉症）の当事者です。僕は学校に通学していたときに、激しいいじめを経験しました。いじめの原因は発達障害のために対人能力や社会性に障害があったからです。その当時、学校のカウンセラーにも相談しましたが、カウンセラーは発達障害に関して無知のため、「いじめられるのは本人の責任」とされてしまいました。学校でのいじめは深刻な問題であり、いじめのために学校を中退しなければならない者もいます。最近では最高学府であるはずの大学内ですら、いじめは問題化しています。いじめの大半は発達障害が原因です。発達障害は先天性の脳の機能障害であり、社会性、対人能力、認知能力などに障害がみられます。栗東市に発達障害によるいじめ防止に取り組むことを求めます。

## 2. 陳情事項

栗東市に学校内での発達障害によるいじめ防止のために次の施策をしてくださるよう、求めます。

- ① 栗東市で勤務するすべての臨床心理士、精神保健福祉士などのカウンセリングに従事する者に、発達障害についての研修を実施。発達障害についての知識を身につけと理解を深めてもらう。残念なことに発達障害のことを知らない者が多く、「本人の努力不足」「いじめられる方に問題がある」「生まれ育った環境に原因がある」などと誤解している担当者が多いため、早急に研修を実施する。
- ② 栗東市内の学校、小学校、中学校、高校、大学などで発達障害についての啓発活動を実施する。発達障害は人口の約7%を占める障害であり、学内でのいじめの原因の大半は発達障害である。大津市では中学生がいじめを理由に自殺しており、早急に対策が必要である。具体的には学校の教師に対する発達障害についての研修を実施。さらには発達障害の児童、生徒のいる学級において、発達障害のことをほかの児童、生徒にも授業のなかで教え、発達障害の知識を身につけ、理解してもらう。
- ③ 栗東市内で従事する臨床心理士、精神保健福祉士に対して、相談者に暴言を吐かないように指導する。相談者に「お前が悪い」「あなたの責任だ！」などと暴言を平気で吐くカウンセリング担当者が多く、相談者が二次被害を受けることが多く、社会問題化している。このようなカウンセリング・ハラスメントを防止するために指導する。
- ④ 発達障害の児童、生徒の学卒後の就労のことを考える。進学のことばかりではなく、就労のことを第一に考えたいうえで、進路を選択する。学校の進路指導の教師に発達障害についての研修を行い、適切に進路を指導できる体制を整備する。
- ⑤ すでに学校を卒業した成人の発達障害の当事者に対しても、就労支援を行う。発達障害の当事者は他人と対面する仕事が苦手

な反面、自分ひとりで作業できる仕事には集中力を持つ。コンピューターの技術の取得などの就労に向けて訓練する体制を早急に整備する。

残念ながら発達障害のことを理解せず、個人攻撃と暴言ばかりを繰り返すような人が対人援助の仕事をしていることが多いです。臨床心理士、精神保健福祉士でありながら、発達障害のことを知らぬ者が大勢おり、早急に発達障害についての知識を身につけ、理解を深めるための研修を実施することが求められております。

発達障害は先天性の脳の機能障害であり、本人の努力不足や生まれ育った環境などが原因ではありません。発達障害は①対人コミュニケーション能力の障害、②社会的な常識の欠落などの社会性の障害、③判断力や認知能力などの障害です。このために学校内で良好な人間関係を構築することができず、友人ができない、集団生活が送れない、会話ができない、コミュニケーションがとれない、意思疎通ができない、いつも他者と違うことばかりしてしまう、などのさまざまな障害が発達障害を持つ児童、生徒にみられます。そして、こうした障害が他の児童、生徒から理解されず、誤解と反発をかい、学校内でのいじめの原因になっております。大部分の発達障害の児童、生徒は良好な人間関係を構築しようと努力するのですが、対人能力に障害があるために簡単な雑談や世間話ができず、仲間の輪に加わることができず、教室内で孤立するというケースが多いです。繰り返しますが、本人の性格の問題でも生い立ちの問題でもありません。先天性の脳の機能障害によるものなのです。

学校内でのいじめをなくすためには発達障害のことを正しく理解したうえで、対人能力、社会性などを身につける訓練を行うなどの正しい対策が必要なのです。

また学校卒業後も、発達障害者は対人能力などの障害のために、サービス産業が主体の現在社会における就労は難しく、苦手な接客などの対人業務ができず、職を転々とする者が多いです。なかには「自分は無能なのだ」と思い込み、命を絶つケースもあります。このため在学中から職業訓練を行うなど就労に向け

た取り組みを行うことが必要なのです。残念ながら発達障害のことが近年まで知られておらず、医療体制も未整備のまま放置されてきました。現在でも発達障害の有効な治療法は確立されておらず、多くの人々が苦しみ続けております。

栗東市がこの機会に発達障害による学内いじめの防止と学卒後の就労の支援に向けて取り組むことを要望いたします。